

本県の「幸福度」過去最高

一般財団法人日本総合研究所(東京)がまとめた都道府県別「幸福度」ランキング2018年版で、本県の総合順位は過去最高の11位となった。最下位が続く「魅力度」ランキングとは対照的に、20位台だった過去の調査より大幅に順位を上げた。「文化」「健康」の分野で得点を伸ばしたことが上昇の要因。

ランキングは同研究所の寺島美郎会長が監修し12年版から始まった。本県は12年版が24位、14年は20位、16年も26位だった。

18年版は人口増加率や1人当たり県民所得などの基本指標5項目のほか、仕事、教育、健康、文化、生活の分野別指標50項目と追加指標15項目の計70項目で評価した。

幸福度ランキング

1	(1)福井	井
2	(2)東京	京
3	(4)長野	野
4	(5)石川	川
5	(3)富山	山
...
11	(26)茨城	城

※日本総合研究所調査、()前順位

茨城県の主な結果 (2018年版)

基本指標		16位
分野別指標	健康	17位
	文化	19位
	仕事	26位
	生活	20位
	教育	7位
評価が高い指標	小中学校の余裕教室活用率(1位)	
	子どもの運動能力(2位)	
	高校のインターンシップ実施率(4位)	
	本社機能流入企業数から流出企業を差し引いた数(4位)	
	小中高校の司書教諭発令率(4位)	
健康寿命(5位)		
評価が低い指標	道路整備率(47位)	
	ホームヘルパー数(47位)	
	外国人宿泊者数(42位)	
	信用金庫貸出平均利回り(41位)	
	平均寿命(41位)	
	刑法犯認知件数(41位)	
	産科、産婦人科医師数(40位)	

26位→11位

18年、日本総研ランキング

その結果、本県は全70指標のうち17項目で10位以内の評価。特に文化分野では教養・娯楽支出額(24位)や書籍購入額(19位)が上昇、留学生数も7位とトップ10に入った。18年版から加わった追加指標5項目のうち、訪日外国人客消費単価やコンビニエンスストア数など3項目がそれぞれ8位だったことも、順位を押し上げる一因になった。

一方で、ホームヘルパー数や道路整備率は依然として低く、上位常連だったエネルギー消費量は31位に後退。医療福祉指標の低さも目立った。同研究所担当者は本県について「上位の福井や東京のように突出して秀でた分野はないが、5分野全てで全国平均を上回り、非常にバランスの取れた県と言える」と分析。ただ「雇用や企業に関わる仕事分野では順位を下けている項目も多く、改善の余地がある」と課題を挙げた。

ライフステージ別のランキングでは、本県は「現役シルバー(60代)」の6位に対し、「子育て世代(30〜40代)」が44位と低迷。指標となる夫の家事・育児貢献度(42位)や人口当たりの刑法犯認知件数の多さが響いた。

別の民間調査会社が毎年発表する都道府県別の魅力度ランキングで本県は現在、5年連続で47位。

昨年の知事選で当選した大井川和彦知事は政策ビジョンで「活力があり、県民が日本一幸せな県」を基本理念に掲げ、県はこれを基に新たな県総合計画の策定を進めている。

(戸島大樹)